

トピックス



大阪市北区天満橋1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

平成25年度 森林環境教育セミナーを開催



【箕面森林ふれあい推進センター】 8月19日(月)箕面国有林「勝尾寺園地」において、箕面森林ふれあい推進センターと箕面市教育センターとの共催により、「森林環境教育セミナー」を開催しました。このセミナーは、教職員の方に森林の中で様々な体験活動などを通じて、森林の持つ公益的機能や森林と人との関わり、そして生物多様性の機能について理解と関心を深めていただき、児童への森林環境教育を実践できるようにすることを目的に開催しています。このセミナーには、箕面市の外、豊中市、池田市、豊能町の小学校、中学校から23名の教職員の参加がありました。

午前中は、京都教育大学の山下先生より「森林環境教育の重要性と進め方」と題して、日本の森林・林業の歴史や森林環境教育の重要性と、今後の進め方について講義があり、参加者は真剣なまなざしで受講していました。

参加者からは、「木を切る(間伐)ことはいけないことだと思っていましたが、森林を守り育てるためには、必要な行為だということを改めて学ぶことができました。」「今の森林は自然のバランスが崩れている。もっと私達は森林や自然、そして、周りの自然環境に関心を持つべきだ。」「この講義を受講して、森林環境教育の大切さが改めて解った。」等の意見が多く出されました。

山下先生の講義の後、森林環境教育推奨事例集を活用した実習として「飛ぶタネの模型づくり」を実施し、アルソミトラのタネ(ウリ科の一属：種が翼の形をしている)の模型をつ

くり、実際に飛ばす体験を実施しました。結果、良く飛ぶ人、ぜんぜん飛ばない人等々、参加者も童心に返って遊び心を持って飛ばしていました。

午後からは、残暑の厳しい中、ボランティアグループ「きんきちゅうごく森林づくりの会」の指導による間伐を実際に体験しました。参加者は初めて扱うノコギリに悪戦苦闘しながら汗だくになって間伐作業を行っている姿がありましたが、作業の厳しさ、間伐する木の選定の難しさや間伐技術の大切さについて身をもって体験することができ、有意義でしたとの感想が聞かれました。

この度、実施した「森林環境教育セミナー」を受講した教職員の皆様へアンケートを実施した中で、「今回セミナーを受講して、森林環境教育は必要だと思いますか?」との質問したところ、「理科や総合学習の時間を活用して授業を実施したい。」「土砂災害のニュース等を題材に、森林の大切さや必要性について学習させたい。」等の意見が多く寄せられました。

参加者より頂いた貴重なアンケート意見については、取り纏めを行い、次回の「森林環境教育セミナー」に活かし、より実践的な森林環境教育を推進していきたいと考えています。

最後に、参加者一同による記念撮影を行った後に、参加した教職員からスタッフに向け、「今日は森林を守る活動の大切さと児童たちへの森林環境教育の必要性について学ぶことができ、有り難うございました。楽しい一日でした。」とのお礼の言葉がありました。

インターンシップの受け入れ ～大学生の就業体験学習～

【京都大阪森林管理事務所】 7月22日(月)～8月2日(金)の10日間、京都大阪森林管理事務所では、京都大学大学院及び京都大学の学生2名をインターンシップ(就業体験学習)として受け入れました。

この制度は、大学生等が農林水産省の実際の行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、林野行政並びに国有林野事業に対する理解を深めてもらうことを目的としています。就業体験学習として、当所が実行している

- ・ マツクイムシ被害木調査及びカシノナガキクイムシ被害木調査
- ・ 夏休みイベントとして開催した「親子木工教室」スタッフ
- ・ 造林事業(下刈)等の体験実習
- ・ 治山実施計画作成及び現地踏査
- ・ 間伐の現地踏査及び調査
- ・ 境界検測、境界巡検等

主に現場で行う業務を体験してもらいました。

実習期間が暑い時期と重なったこともあり、現場での作業は大変だったと思いますが、研修生は、汗だくになりながら真剣に、かつ、意欲的に実習に取り組んでいました。



間伐調査の打合せ

研修終了時には「日本の森林はどのようにしていけば良いのか、自分はそこにどう関わっていくのかを考えるうえで、非常に有意義なものであった」「森を管理するという目線から森林の現象を見て、施業計画を立てて実



林内で作業をする学生

際に施業をするというのは新鮮で楽しかった」等の感想が聞かれました。研修生がこれを一つの機会としてさらに森林・林業の現場や課題に関心を抱き、そしてこの分野で大いに活躍してもらうよう職員一同願っています。

第30回「夏休み木工教室」開催!

【和歌山森林管理署】 8月27日(火)、和歌山森林管理署主催による夏休み木工教室を同署で開きました。

田辺市とその周辺町から小学生25人が参加し、龍神産の杉材を使った「リラックスチェア」作りにチャレンジしました。

このイベントは、夏休みの思い出づくりや宿題を兼ね、木に親しんでもらおうと毎年開いています。

冒頭、当署長から歓迎の挨拶後、長年にわたり木工教室の指導に携わってきた田辺市龍神村在住の林業家、眞砂典明さんに、同署から龍神材で作ったオリジナルの感謝状を贈り、参加者から暖かい拍手が送られました。

工作を始める前に、当署の職員による紙芝居「森林からのおくりもの」を行いました。森の働きや間伐の大切さ、木材と私たちの生活との結びつきなどについて



紙芝居「森林からのおくりもの」

説明を行い、子どもたちは熱心に聞き入っていました。



OBとチェア作り

た作品を見て笑顔がこぼれていました。

当署では、地域の子どもたちが木のことをいろいろ勉強し、少しでも森林に関心をもって理解を深めてもらうために、今後もこのイベントを継続していくこととしています。

子どもたちは、同署の職員、OBらの指導を受け、曲尺(さしがね)や定規で木材の寸法を測り、慣れない手つきで、一生懸命ノコギリで切りおとし、悪戦苦闘しながら、少しずつ形になっていく作品の完成をイメージし、約4時間かけて、作品を見事に完成させました。

子どもたちは、苦労して作っ



参加の子どもたち

森林・林業の再生に向けた協定を締結

【森林整備部 技術普及課】 8月1日（木）、近畿中国森林管理局（前川泰一郎局長）と独立行政法人森林総合研究所関西支所（吉永秀一郎支所長）は近畿中国森林管理局において、「近畿及び中国地域の森林・林業に関する研究と技術開発等の円滑な促進に向けた連携と協力に関する協定」を締結しました。協定締結式には、関係者14名が出席しました。

この協定は、近畿中国森林管理局と森林総合研究所関西支所が連携・協力し、それぞれの人材、資源、フィールドや研究データ・成果等の活用を図りながら、近畿及び中国地域の森林・林業の再生に必要な課題解決に向けた研究と技術開発の成果の普及・定着の促進を図ることを目的としたものです。

この協定に基づき、今年度より3年間の予定として、共同で「実生コンテナ苗による低コスト造林技術の開発」に取り組み、ヒノキコンテナ苗等の活用による低コスト化システムを開発し、国有林、民有林への同システムの普及と定着を図っていきます。



また、近年、近畿及び中国地域の多くの森林において、二ホンシカの食害により、林床植生の消失等の被害が顕在化し、森林生態系の維持や植栽木の生長が阻害されるなど、二ホンシカの食害対策が喫緊の課題となっていることから、同じく今年度より3年間の予定として、共同で「ヒノキ植栽地のシカ害評価及び対処技術法の開発」に取り組み、効果的なシカ被害対処技術を開発していきます。

特に、今年度は、府県の森林・林業担当者や研究機関の担当者をはじめとした民有林関係者を対象に、※列状間伐地での現地検討会や実生コンテ



ナ苗による低コスト再造林技術の開発研究に関する現地検討会を行うほか、当該協定を具体的に動かしていくための協議会を行うなど、より一層の連携強化を図り、地域の森林・林業の再生に向けた各種取組を展開していくこととします。

「消費者の部屋」特別展示 ～合同開催～

【岡山森林管理署】 8月2日（金）に中国四国農政局にて、「消費者の部屋」特別展示企画を実施しました。この企画は、毎年実施しているもので、約30名の子どもたちが参加し、木工クラフトやパネルを用いたクイズラリーなどを実施しました。岡山署からは4名の職員が出席し、子どもたちには楽しいひと時を過ごしていただきました。

子どもたちは、最初は作るものが決まらず、とりあえず作ってみるかという様子でした。初めて自分の手でノコギリを引いて木を切り、レイアウトを考えていくと、雰囲気がいつの間にか真剣なものに変わります。はじめはシンプルでかわいらしい作品だったものが、自分で作ることが楽しくなったのか、最後は職員もびっくりするほど大作になっていました。出来たけど、もっと工夫したい、どうしたらいいかなと、悩みながらも大作を作りあげていく様子はとても楽しいものでした。子どもたちもみんな真剣な顔つきで、作品作りに取り組みしており、出来たときはとてもうれしそうな顔をしていました。このイベントを通じ、自分達で一つの作品を作り上げる喜



夢中になって作品作り

びを味わってもらえたのではないかと思います。自分達が作った作品を大切そうに見つめる姿を見て、とても心が温かくなりました。クイズラリーでは農政局と合同で何問か出題しました。山の手入れについて（下刈・除伐）の問題では、パネルを使い分かりやすく説明をしました。少しではあると思いますが森林についての理解が深まったことと思います。



クイズにチャレンジ！

アンケートでは、「楽しんでよい作品ができた。」「いい思い出ができた。」などの感想をいただきました。

この経験を通して、木材の温もりや、やさしさ、森をはじめとした自然に興味を持ってもらえたのではないかと思います。

この経験を通して、木材の温もりや、やさしさ、森をはじめとした自然に興味を持ってもらえたのではないかと思います。



第3回 (株) 日本触媒による夏のCSR活動を実施 ～赤西国有林で下刈作業～

【兵庫森林管理署】 8月24日(土)、株式会社日本触媒は、同社が行うCSR活動(社会貢献活動)の一環として、宍粟市赤西国有林(日本触媒・水源の森)において、森林整備や社員とその子どもたちによる木工体験などを行いました。

当日は、心配された雨も小康状態で、夏休み中のイベントということから、内容の一部や場所を変更して実施され、遠路大阪府や県内姫路市方面から約50人の参加がありました。(ひょうご森の倶楽部、当署からも参加、総勢約70人)

今回のメインは森林整備(下刈作業)で、雨の中でも実行部隊(男性社員)が雨合羽を身にまとい、下刈鎌を使っての作業となりました。慣れない下刈鎌に最初は腰



雨合羽の実行部隊

の引けていた参加者も次第に慣れ、部隊の意地もあってか、腰近くまで伸びて繁茂しているシダ類を次々と刈り払っていきました。(※次回の活動では、この下刈箇所

で広葉樹を植栽します。)

この間、女性社員や子どもたちは、この「水源の森」の近くに



先代の木と記念撮影

そびえ立つ、先代の木(推定樹齢4百年の杉)を訪れ、子どもたちみんなで手を繋いで木の幹周りを測ったり、大木を肌で感じながら全員で記念撮影となりました。

この後、場所を移しての木工体験では、子どもたちは、当署が用意した木の実や木片などを使って思い思いの作品を作り上げていきました。

楽しい昼食もそこそこに、午後は沢の中の生物調査を行いました。

この水辺の調査では、三橋先生(兵庫県立人と自然の博物館研究員)と片野先生(兵庫県立大学准教授)を特別講師に迎え、子どもたちみんなで網を持ち、赤西溪谷

周辺の沢に入って生物を捕まえたり、種の同定や綺麗な水にしか生息していない生物等の確認を行いました。

今年も希少な「ハコネサンショウウオ」など数種類の生物が見つかり、子どもたちにとっては、夏休み最後に森と川に接するいい機会となったようです。

今年の(株)日本触媒の、ここ「水源の森」での活動は、4月期の新入社員研修から始まり残すところ秋(4回目:10月19日予定)の活動のみとなりました。次回は今回下刈した場所での植栽体験や赤西溪谷ウォーキングなどが予定されており、引き続き、ここ



水辺調査に夢中!

赤西国有林から森づくり活動が発信されます。

花草木

今号は栗です!

栗は5月～6月に開花する虫媒花(虫が花粉を運びます)です。その時に大事な、あの独特の香り。実は成分はヒトと同じ成分が含まれているんです!びっくりしました。そして果実にはサツマイモとイチゴやパイナップルと同じ香り成分が含まれています。ほくほくとした甘い香りはここからきているんですね。

食べるだけではなく、伝承やお話も多い栗。猿蟹合戦(民話)や大きな栗の木の下で(童謡)、三度栗という伝説も各地にあるようです。これからまさに、栗のシーズンへと突入です。旬の栗を片手に、三度栗伝説を楽しむ。

食・文学の秋を楽しむお供に丁度いいかもしれませんね!

お知らせ

「森林の調査隊!! フォトコンテスト」作品募集!!

箕面森林ふれあい推進センターでは、「森林(もり)の調査隊!! フォトコンテスト」の作品を募集しています。募集締切:平成25年10月31日(木曜日)必着
本フォトコンテストの応募作品に記載される個人情報、本フォトコンテストの運営に必要な範囲で利用します。詳しくは、箕面森林ふれあい推進センターホームページ内 http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/information/morinochousatai.html

森林のギャラリー(局庁舎1階)

- 【9月の展示スケジュール】 森林の絵画展
9/2～9/13 「絵画展」【絵画グループ「くりえいと」】
9/2～9/27 「ドライフラワー」(展示BOXのみ)
【日本原色ドライフラワー研究会】
9/17～9/27 「スケッチ教室グループ展2013」
【みのむしプロ】

シリーズ 保護林 第4回

近畿中国森林管理局の保護林

えのひらやま

榎平山暖帯落葉樹林植物群落保護林 [太田川森林計画区]



榎平山暖帯落葉樹林植物群落保護林は、広島県安芸太田町に位置する榎平山国有林にあります。中国山地の暖帯落葉樹林を代表する林分の保護を図ることを目的とし、ミズナラ、コナラを保護の対象としています。

この保護林の面積は187.86haで、水源かん養保安林などにも指定されています。

保護林に面して龍姫湖(温井ダム)、仙水湖(王泊ダム)、滝山峡があり、周辺施設には多くの観光客等が訪れています。



コナラ大木



アカマツが混じる林分

【榎平山暖帯落葉樹林植物群落保護林に生息・生育する動植物】

- ◎ 植物：コナラ、ミズナラ、アカマツ、コハウチワカエデ、アカシデ、イヌブナ、リョウブ、ホオノキ、ソヨゴ、アセビ、コバノミツバツツジ、イヌガヤ、コアジサイ、チュウゴクザサなど
- ◎ 動物：ニホンザル、ニホンジカ、ツキノワグマ、イノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマ、エゾヨツメなど

【榎平山暖帯落葉樹林植物群落保護林へのアクセス】

◎安芸太田町から・・・国道186号線で温井ダムを過ぎ、国道沿いからアプローチ。

【保護林及び国有林内での注意事項】

- ★国有林内の動植物の捕獲、採集はできません。
- ★国有林内では火気厳禁です。林内では禁煙にご協力ください。
- ★自然環境の保護と安全な利用のために、歩道等を外れないようにお願いします。
- ★林道は幅が狭い未舗装の所がほとんどです。落石の危険性もあります。注意して通行してください。
- ★ツキノワグマ生息域です。熊鈴をつけるなど、装備は万全にしてください。



水都おおさか 森林の市 2013

木の文化 大川端は森林 (もり) だくさん

来て！ 見て！ 触って！



★ 水都おおさか森林の市 2013 ★



自分だけの宝物を作ろう
つるかご編教室 (有料)



各テントでは体験がぎっしり！



親子で一緒に
イスタのくい (先着順・無料)



キットによる
住宅木組み体験

会場内に駐車場はありません。できるだけ公共交通機関をご利用のうえお越しください。自転車は場内の駐車場にお預かりします。



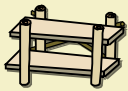
- だれでもすぐに絵手紙名人！
- 木の名を当てて景品ゲット
- ネイチャーゲームを楽しもう
- 学生による子供向け遊びコーナー

第14回天満音楽祭同日開催

まちなかビーチで新体験！
地引網で生物調査！



体験
コーナー



販売
コーナー



希少な銘木を格安で

- 草木染製品や手作りネイチャークラフトの作品販売
- まな板、花台、木製玩具や椅子などの実用品販売
- 日常使える木製雑貨や自分で組み立てる木製キット販売

フードコーナー

- 地産地消の野菜や果物、名産品
- フードコート (たこ焼き・から揚げ)
- 柿、ミカン、山菜佃煮、ワサビ漬、ホタルイカの沖漬
- 各地から届く海の幸・山の幸、新鮮素材いろいろ



エンジンつきゴムボート
キッズボートに乗ってみよう
(一人200円)



丸木切りに挑戦 (無料)
端材のプレゼントもあるよ



～たくさんの人でにぎわう会場入回付近～

ドラゴンボート

(手漕ぎ式ボート試乗会)

予約制

大川をドラゴンボートでこぎながら巡る乗船体験
源八橋～大江橋間を往復 (所要時間 40分～50分)
① 10時 30分発 ② 13時発 定員 32名、一人 500円
<申込方法>電話かメールでご予約ください
NPO 法人大阪の子どもたちを水辺に誘う会代表: 藤本慎二
Tel 090-3706-7193
E-mail: shinji-naniwa@nike.eonet.ne.jp

展示
コーナー



水源の森ジオラマづくり (無料)

体験は有料と無料のものがあります。(注)写真は以前の様子で、出展内容は都合により変更する場合があります

お問合せ先: 水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会 事務局 (近畿中国森林管理局 技術普及課内)
〒530-0042 大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 06-6881-3484 FAX 06-6881-2055
URL: <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/> E-Mail: kc_shidou@rinya.maff.go.jp
イベント当日の連絡はこちらまで 090-8937-7937